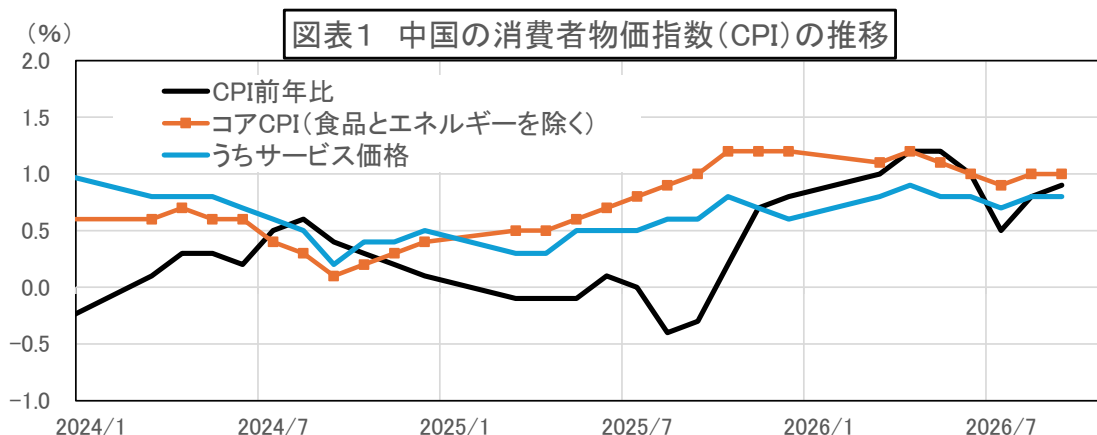
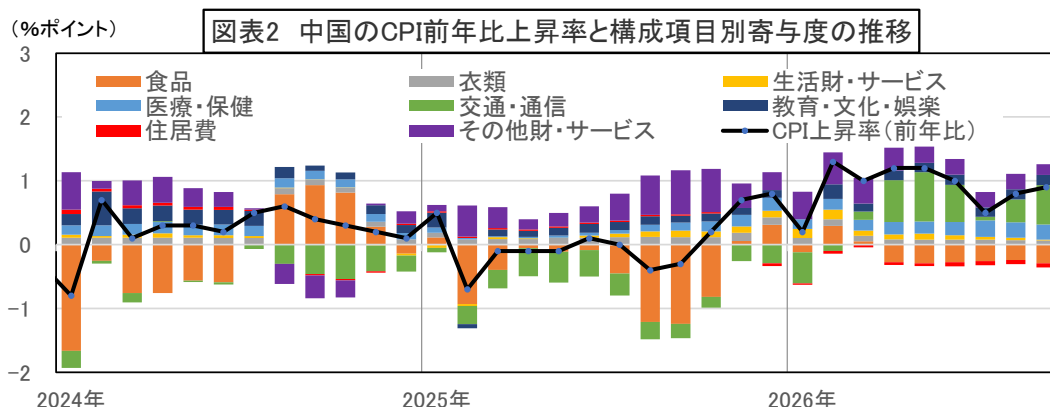


(中国)9月のCPIは低水準にとどまる一方、PPIは予想を上回る伸び

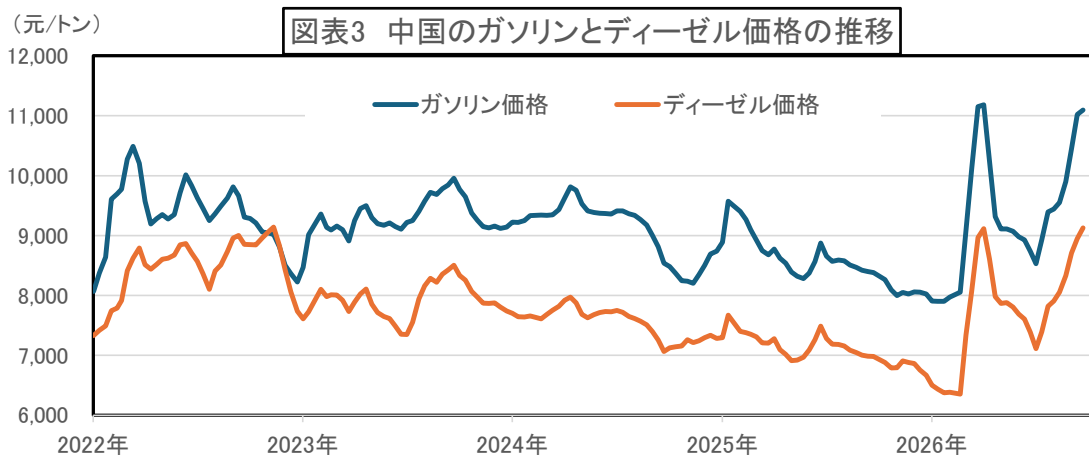
中国国家統計局が10月14日に発表した9月の消費者物価指数(CPI)は前年比0.9%と8月(同0.8%)から小幅に加速したが、前月比では0.2%と8月(0.4%)から鈍化するなど、依然として低水準で推移している(図表1)。前年比では12か月連続のプラスとなったものの、引き続き政府目標(2%)を下回っている。価格変動の激しい食品とエネルギーを除いたコアCPIは前月比0.0%、前年比1.0%となった。



9月のCPI前年比上昇率(前掲0.9%)の構成項目別寄与度をみると、「交通・通信」、「医療・保健」、「その他財・サービス」が比較的大きく寄与した一方、「食品」と「住居費」は依然として押し下げ要因となっている(図表2)。



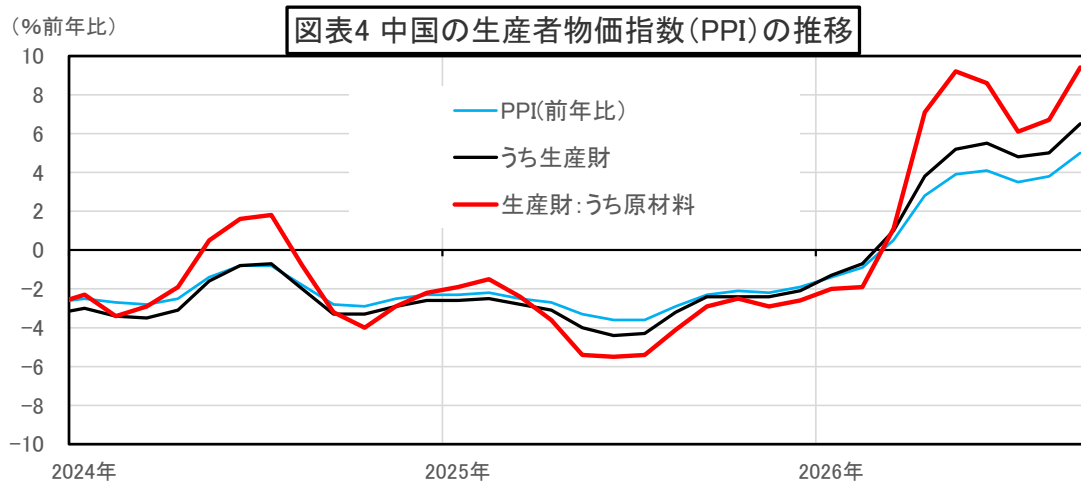
「交通・通信」のうち、ガソリンなどのエネルギー価格は前年比7.3%と、8月(同4.1%)から大幅な上昇となり、特にガソリン価格は前年比16.6%と、8月(同9.3%)から7.3ポイント上昇し、CPI前年比上昇率を0.47ポイント押し上げた。加えて、サービス価格は前年比0.8%とCPI前年比上昇率を0.40ポイント押し上げた。このほか、スマートフォン(同14.9%)やパソコン(同21.8%)などの端末機器で価格上昇が続いたことも、CPIの押し上げ要因となった。



(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は2026年9月30日。

他方、内需の弱含みが依然として続くなか、消費促進策の効果も一巡し、自動車(同▲1.7%)や家電製品(同▲1.8%)など耐久消費財の価格は低位で推移した。また、食品価格も押し下げ要因となったが、特に豚肉価格(同▲10.0%)と生鮮野菜価格(同▲8.1%)は、下落幅が縮小したもの、両方でCPI前年比上昇率を0.33ポイント押し下げた。

先行きについては、中東情勢の不安定化や天候不順の影響が依然として続くなか、10月にもガソリン価格の高止まりや食品価格の上昇が見込まれる。もともと、内需の大幅な改善が見込めないなか、10月のCPI上昇率は前年比1.0%程度まで加速するとみられるものの、2%の目標を下回り、引き続き低水準で推移すると予想される。



(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は2026年9月。

他方、9月の生産者物価指数(PPI)は、前月比1.2%、前年比5.0%と8月(同0.4%、同3.8%)からいずれも大きく加速した(図表4)。7か月連続の前年比プラスとなり、市場予想(前年比4.0%程度)を上回った。その背景として、第1に国際原油価格の大幅な上昇を受けて、中国国内の石油・化学関連製品価格が大きく上昇したことが挙げられる。また、異常気象の影響が和らぐなかで、内需振興政策の効果が徐々に顕在化し、石炭・鋼材・セメントなどの価格が上昇に転じたこともある。さらに、AI投資ブームを背景に銅などの金属や半導体関連価格の上昇基調が続いたことが挙げられる。

先行きについては、国際原油価格の上昇ペースは鈍化するとみられるものの、公共事業の加速を背景に、建材価格の下落幅が一段と縮小するが予想されるほか、半導体関連価格の上昇傾向が続く可能性もあり、10月のPPI上昇率は前年比5.3%前後まで小幅に加速すると見込まれる。